

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成31年3月6日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3891400016
事業所名	グループホームあいの里
(ユニット名)	さくら
記入者(管理者)	
氏名	柴田 薫
自己評価作成日	30 年 12 月 28 日

<p>【事業所理念】 あいの里はみんなが一つの家族です。助け合い、支え合い、励まし合い、温かな、明るい笑顔のある家庭を目指します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 個々のプランが、スタッフサイドで作成することが多く、利用者、家族の意向や希望を反映できていなかった。 目標：利用者、家族の意向や希望を重視し、利用者サイドに立ったプランを作成する。 結果：先ずケアプランの様式を変更し、本人の希望を取り入れ、希望に添った援助目標、援助内容とした。家族からの要望については、面会時や電話でできるだけ聞くようにしているが、多くの方が「別にありません」とか「満足しています」との回答が多く、スタッフで推測して希望欄に記入する場合もあった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は国道から入った静かな場所にあり利用者は穏やかな環境で過ごすことができ、時には畑に出て収穫の手伝いや周辺の散歩など、家庭に居るような雰囲気を味わうことができている。利用者の尊厳を大切に家族の意向を聞きながら、寄り添う姿勢を大切にしている。毎週交流館ではカラオケ大会やリハビリ体操、ビンゴゲームを行うなど、利用者に好評を得ている。事業所はボランティアやプロの歌手を招いたり、地元住民との交流を兼ねたイベントを開催するなど、地域住民との交流の場として定着している。広い菜園では季節の野菜が収穫でき、代表者自らが世話をし気さくな人柄で地域住民からも慕われている。勤続年数の長い職員が多く優しい声かけや気配り目配りが自然に行えている事業所である。</p>
---	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	個々の希望、意向の把握に努め、できる範囲で叶えて上げられるよう支援している。	◎	/	○	日々の関わりの中で利用者一人ひとりの思いを聞き取るよう努めている。介護計画の見直しの際は改めて希望を確認するようにしており、「家に帰りたい」「夫に会いたい」など率直な思いを聞いている。意思疎通が困難な利用者は、表情等から気持ちをくみ取るよう努め、申し送りノート等で伝達し共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	できる限り本人の意向に添っているが、把握が困難な方が増えており、職員サイドでの判断による事もある。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入所時に本人の思いを家族等より聞いているが、面会や電話で確認することも多い。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日誌、個人ファイルにいつも記録し、共有できている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日々の変化に注意している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時のサマリーを参照している。また本人や家族の話をよく聞くようにしている。	/	/	○	入居時、家族から生活環境や食べ物の好き嫌いなどを詳しく聴取し、知人や昔勤めていた会社の同僚などからも、こだわりにしてきたことなど情報を把握するよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	掃除や台所の手伝い(お膳拭き、台拭き、ゴボウそぎ、皮むき)等できる事は手伝ってもらっている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	夕方や人の出入りが多いときに不安定になり易い。特に夕方は帰宅願望が強くなる傾向にあり、その時の表情、行動などで把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	職員のかかわり方が大切である。イライラせず、落ち着いて穏やかに接するよう心掛けている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	今までの情報を基に24時間シートを作成し、支援の参考にしている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ケア会議等で家族や本人の思いや意向を確認しながら検討している。	/	/	○	職員が利用者の思いなどを把握した上で「私の願いや支援してほしいこと」の用紙に記入するようしており、それを基に家族の意見なども取り入れ、利用者本位の視点で検討するようになっている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	家庭的な雰囲気でごさげするように明るく笑顔で接している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	職員会議等で話し合い、より良い生活が送れるよう意見を出し合っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日常生活の中やケアプラン更新時に本人の思いや要望を聞いている。	/	/	/	利用者や家族の意向を確認し、職員が意見やアイデアを出し合いながら介護計画を作成しているが、職員中心の話し合いになっているため、家族等関係者を交え話し合うなど、より良い介護計画の作成につなげて欲しい。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	利用者の担当を中心に、職員会議、ケア会議で気付きや情報をみんなで話し合っている。	○	/	△	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	生活環境や本人の意思をなるべく聞いて対処している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	行事の案内をして参加の呼びかけをしている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	家族、本人の意見を聞き、6ヶ月毎に職員会議、ケア会議で話し合っている。	/	/	○	ケア会議等で話し合い、介護記録用紙に目標を記載している。職員は介護計画に沿って支援ができていのかどうか毎日評価し、介護記録に記載するなどして、利用者一人ひとりの介護計画を把握している。経過支援記録を別に用意し、利用者の言葉や表情など日々の様子を記録している。排泄用品の変更提案など、職員の気づき等は申し送りノートなどに記録し共有するようにしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の介護記録にプランを記載して毎日評価できるようにしている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録、支援経過記録に具体的内容を個別に記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	介護記録の他に、通院状況、身体行動の変化を記録している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	6か月に1回ケアプランの見直しをして、計画が現状に即したものにしているか確認している。	/	/	○	介護計画は6か月毎に見直している。毎月モニタリングを行い利用者の状態を確認している。状態に変化が生じた場合は、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月一回職員会の後のケア会議で話し合っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人に変化があった場合は、家族に連絡し、ケア会議で話し合っている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回の会議を開催している。	/	/	○	毎月ケア会議を開催するなど、定期的な話し合いを持つようにしている。緊急時等必要な場合は、その都度出勤職員で速やかに話し合い、結果は職員が共有できるよう申し送りをしている。参加できない職員には、会議録を回覧・確認し共有するようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	自由に意見が言えるように職員一同心掛けている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	勤務表に行事予定として記入している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議報告書を作り、申し送りノートで回覧、チェックしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノート、業務日誌等で確認している。	/	/	○	申し送りノートや業務日誌、連絡ノートを活用し情報を伝達するなど、確実に共有を図っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	介護記録、業務日誌、申し送りノートを活用している。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	毎日実践するのは難しいが、できるだけ希望を聞いて叶えられるよう努力している。	/	/	/	外出に出かけた際に食べたい物を決めてもらうなど、日々の生活の中でできる限り自分で選んで決めることができるよう支援している。調査時には、利用者が塗り絵やペーパーバック折りなどを、職員が横で寄り添い優しい言葉をかけながら楽しむ様子を見ることができ、雰囲気づくりにも工夫していることが窺えた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	本人にできるだけ選んでもらっている(例えば外出時の飲食物)	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者の思いや希望を聞いて本人が納得できる暮らしを支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	常に声をかけし、本人のペースを大切に何事も強制しないようにしている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	レクリエーションの体操、風船バレー等を工夫して行い、楽しい雰囲気作りをしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	常にコミュニケーションをとりながら、できるだけ本人の意向に添った暮らしができるよう支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	内部研修等で勉強している。プライバシーを大切に、言葉かけや態度にも気をつけている。	◎	◎	○	職員は人権や尊厳について、研修等で学び理解しており、日々の言動等には細心の注意を払い支援している。利用者に不快な思いを与えないよう、職員は声の大きさにも留意し、さりげない声かけに努めている。居室に入る際は、ノックと声かけを徹底している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	大きな声は出さず、優しい言葉かけで利用者さんの立場になって行動している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	排泄や入浴時にはドアやカーテンを閉めている。優しい声掛けでゆったりと介助している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室へ入る時はノックや優しい声掛けをしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	プライバシーの保護や個人情報漏洩に関しては職員会等で話し合い、厳しく遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者は人生の先輩として敬い支援している。お互い「ありがとう」の言葉を交わしている。	/	/	/	利用者同士がトラブルにならないよう、職員は仲介するなど配慮している。世話好きな利用者やムードメーカーの利用者は、利用者の中に孤立する人が出ないよう気を配り支え合う関係ができており、職員はその良い雰囲気が保てるよう努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	ここが利用者の家庭だと思い、穏やかに生活してもらっている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士がトラブルにならないよう、常に気を付けている。世話役の利用者がグループを牽引できるように配慮している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	なるべくトラブルにならないよう、座る席を配慮したり、洗面所での整容がだぶらないよう注意している。	/	/	/	

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	家族や本人から話を聞いている。広報誌や議会だよりで、知人家族等の記事があれば紹介している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	家族や本人から話を聞いている。町内の行事等にはドライブ、見学等で参加している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	別の施設に入所されている奥さんや姉妹に面会で交流したりしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時には、リビングや居室等で自由に過ごされている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気の良い日には散歩に出かけたり、花見や紅葉狩り等ドライブを兼ねて出かけている。	○	○	○	事業所周辺の散歩や、農園に行き野菜の生育を確認し収穫するなど、日常的な外出支援に努めている。重度の利用者も、外気浴や散歩ができるよう支援に努めている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	お祭りや、バラ大師等地域のイベントに出かける時は地域の人の協力を得ている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車椅子で戸外散歩に出かけたり、外気浴等をしている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族とドライブに出かけたり、家族に会いに行ったりの支援をしている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	一人一人の状態の変化を把握、記録して、職員同士が密に報告し合って、行動や心理状態に合ったケアをしている。	/	/	/	モップがけや手すりの消毒、新聞整理や台所仕事など、利用者ができることに取り組んでもらえるよう、職員は見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	利用者の機能が低下しないよう、無理強いをしないという原則の下、声掛け支援している。毎月の訪問診療で主治医の指示を仰ぎ、支援の参考にしている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	新聞折り、ナイロン袋の整理などできる事は手伝ってもらっている。できるだけ傍に寄り添い、できない事だけ支援している。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日々の生活の中で、できる事を一人一人が役割分担している。	/	/	/	リビングでは塗り絵やクイズ、間違い探しなど利用者が自分の好きなことを選んで取り組んでもらっている。掃除や食事の手伝いなど、利用者それぞれできることの役割や出番を担ってもらえるよう支援に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	塗り絵や新聞折り、日常生活での出来るお手伝い等で出番を作る取り組みを行っている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	運営推進会議にも参加し、利用者の立場で発言してもらっている。地域内のイベントにも参加している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	外出時には好みの服を自分で選ぶ人もいる。2か月に1回訪問美容により散髪をしてもらっている。				服装の乱れや食べこぼしなどがなく職員は確認し、さりげなく支援するよう努めている。重度の利用者を含め、訪問理容の利用や、行きつけの美容室に定期的に行き髪型を整えることなどを通して、自分らしさが保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	出張美容を利用しているが、本人好みの髪型を希望される方は少ない。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	×	難しい。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	その場に応じた服装ができるように支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	起床時の髭剃り、洗顔、整容は毎日行っている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	2か月に1回訪問美容を利用。散歩を兼ねて地域の理容室を利用している人もいる。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	今までの状態が維持できるように気を付けている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	全員理解できている。				テーブル拭きや下ごしらえ、洗い物などは利用者と職員と一緒にしている。自家菜園で収穫した旬の野菜が食卓に上るなど、季節感を味わうことができる。食器は利用者個々に合った好みのものを使用している。職員は同じテーブルで食事を摂り、利用者のペースに合わせて優しい声かけを行うなど工夫した支援に努めている。重度の利用者もリビングに出て食卓を囲んでおり、職員が献立の話をするなど、食欲増進に努めている。管理者が中心となり職員間で定期的に話し合い、利用者の好みを取り入れながら、栄養に偏りがないよう献立の作成につなげている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	テーブル拭き、野菜の皮むき等手伝ってもらっているが、重度化し一部の人に限られる。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	少しは自信に繋がって居ると思われるが、できる方は限られている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーの人はいないが、肉の苦手な人には違うメニューで対応している。好き嫌いについては本人と家族より聞き、把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	野菜類はほぼ自給自足で旬の野菜は用意できる。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人一人に合わせた調理方法にしている。軟飯や刻み食の人が増えてきている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	手の力のない人は軽い食器を使用している。持参のコップの人も一部いるが、殆どはホームで用意している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者の傍に座り、いつも同じものを食べながら見守り支援をしている。途中席を立ったり食事の中断もあるが、各自のペースに合わせてサポートしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	キッチンとリビングが近く、包丁の音や料理のにおいで食欲が起きるように配慮している。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	糖尿病のある人はカロリー控えめにしており水分も食事、おやつ入浴後とこまめに摂取している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分量の少ない人は、甘みのあるジュース、紅茶等勧めている。食事は殆どの人が完食される。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	昼食のメニューは決めてあるので、夕食は前後のバランスを考え作っている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食器は洗浄後、毎回乾燥機にかけ、まな板はハイター消毒をしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの研修に参加し、職員会で報告、レポートも回覧し、誤嚥性肺炎の防止に努めている。	/	/	/	毎食後歯磨き支援を行っているが、日常的に利用者の口腔内の状況を確認し、健康が保持できるよう支援するまでは至っていないため、毎日利用者一人ひとりの口腔内の状況を確認すると共に、健康状態が保てるよう清潔保持の徹底に努めて欲しい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	殆どの人が義歯であるが、部分義歯の人もあり、十分には把握し辛い。	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	不都合があれば歯科通院し、指示に基づいて支援しているが、歯科医、歯科衛生士による講演、研修会は行っていない。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	夜は義歯を外して休んでいただいて、週1回のポリドント洗浄を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後の口腔ケアを徹底し、口臭のある人は舌苔ブラシ使用、清潔保持に努めている。	/	/	△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	不都合が見つければ、歯科医受診している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	濡れたパンツ、パットで過ごさないよう声掛け確認している。尿意がない人は定期的に声掛け誘導している。	/	/	/	日中・夜間問わず、トイレでの排泄を基本とした支援に努めている。紙パンツやパッドが必要になった場合には、ケア会議等で利用者に合わせて排泄用品の必要性等を検討するなど、それぞれの状況に応じた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排泄ケアの研修に参加したり、看護師のアドバイスを受けている。便秘が続けば医師の指示の下、緩下剤を使用している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	毎日排泄チェック表を記録している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄の量により、パットの容量を変えている。見直しはケア会議等で話し合い、決定している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	疾病の把握、食物の検討、水分補給に気を付け、主治医と相談しながら対応している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	夜間のトイレ誘導、昼間の時間を見計らっての声掛けをしている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	個々の尿量と時間帯を話し合って、スタッフがパンツ、パッド選びをしている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	夜間の睡眠時間などの状況を踏まえ、その人に合った紙パンツ、パットを使用している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	×	薬(マグミット)を使用している人が多い。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	2日に1回の入浴になっているが、無理強いはいしない。温度は好みに応じている。	◎	/	○	2日に1回入浴できるようになっているが、利用者からの要望があれば入浴日以外も対応できるようにしている。入浴時間の長さや湯温なども要望に沿えるようにするなど、臨機応変な支援に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	ゆっくりと湯船につかれるように見守りしている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	シャワーチェアを使用、手摺りも付けて安全を期している。できる事はして頂き、見守りしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	拒まれた場合は無理強いせず、順番や日を変える。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	体調が悪いときは中止し、気になる場合は入浴前にチェックし、可否を決定している。	/	/	/	

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	排泄を済ませ、休んで頂くよう声掛けしている。チェック表により、一応の睡眠パターンは把握できている。	/	/	/	活動を増やすなど、日中の過ごし方に工夫した支援に努めて、安易に薬剤に頼らないようにしている。不眠が続くなどやむを得ない場合は、医師と相談し薬剤を処方してもらうこともある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	体操、パレー、ゲームなどを日課とし、体をなるべく動かすよう声掛けしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	安定剤、眠剤の服用は医師と相談している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	いつでも自室で休めるようにしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	面会が多いので、手紙のやり取りはない。希望があればスタッフが仲介し電話に出てもらうこともある。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	字の書けない人、言葉の出ない人への支援は困難である。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば電話をかけてもらっている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙類は必ず本人に手渡ししている。要望があれば代読している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	施設からはお願いをしていない。家族からの取次の要望には常に応じている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	一人だけ少額のお金を所持している。他は紛失の恐れがあるため持たせていない。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	少数の人は要望があればスタッフと買い物に出かけているが、殆どはスタッフが買い物の代行をしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	難しい。必要時は家族や、担当、管理者が買い物をする。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	個人で所持するのは難しい。紛失、盗難の恐れがある。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所契約の折に所持金、管理方法については保護者と話し合い、同意を得ている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入所契約の折に説明し、同意を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	希望に応じた外出支援、係りつけ医の受診往診、町外の専門医の受診、理美容室の利用等個々の希望に添った支援をしている。	◎	/	○	病院受診や選挙の投票など、利用者や家族からの要望があれば対応するなど、柔軟な支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと			
(3)生活環境づくり												
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関は2ヶ所あり、誰でも気軽に出入りすることができる雰囲気である。明るい挨拶も心掛けている。	◎	◎	◎	玄関周辺は利用者が植えた鉢植えの花が色とりどりに咲いており、ゆったり落ち着いた気分になることができるなど、気軽に出入りできる雰囲気になっている。			
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	明るく清潔で、温度、湿度、換気に気を配りながら、気持ちよく生活してもらえるように配慮している。季節の花を活けたり、季節ごとの飾り物をしている。	◎	◎	◎	リビングには椅子やソファ、畳コーナーがあり、温度や換気に配慮するなど、利用者に気持ちよく過ごしてもらえるよう努めている。毎朝掃除をしており、清潔感が感じられる。玄関や廊下には生花を飾り、壁には利用者直筆の書や季節感のある作品、イベントの写真等が掲示されている。			
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎朝、またはその都度玄関やトイレ掃除をして、常に清潔保持に努めている。					リビングには椅子やソファ、畳コーナーがあり、温度や換気に配慮するなど、利用者に気持ちよく過ごしてもらえるよう努めている。毎朝掃除をしており、清潔感が感じられる。玄関や廊下には生花を飾り、壁には利用者直筆の書や季節感のある作品、イベントの写真等が掲示されている。		
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節に合わせ、花や壁面飾りをし、各居室には好みのカレンダー、家族の写真等を飾っている。						リビングには椅子やソファ、畳コーナーがあり、温度や換気に配慮するなど、利用者に気持ちよく過ごしてもらえるよう努めている。毎朝掃除をしており、清潔感が感じられる。玄関や廊下には生花を飾り、壁には利用者直筆の書や季節感のある作品、イベントの写真等が掲示されている。	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	同じ地域の方同士、気の合う同士が自由に話ができるよう席も自由にしている。一人になれる自室や、テレビ鑑賞、会話ができるリビングなど、好みの場所で過ごされている。							リビングには椅子やソファ、畳コーナーがあり、温度や換気に配慮するなど、利用者に気持ちよく過ごしてもらえるよう努めている。毎朝掃除をしており、清潔感が感じられる。玄関や廊下には生花を飾り、壁には利用者直筆の書や季節感のある作品、イベントの写真等が掲示されている。
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	扉とカーテンでプライバシーが守られている。							
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時、馴染みの品を持ってきて頂いている。仏壇を持参された方には毎朝お茶湯をしている。	◎		○	居室には家族の写真や仏壇など利用者の大切なものが持ち込まれ、落ち着いて過ごせる部屋づくりがされており、居心地良く過ごせるようになっている。			
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	居室、廊下、トイレ、浴室等ホーム内は手摺りを取りつけ、身体機能の維持と安全面に配慮している。トイレ、居室には目線に合わせて目印やネーム札を付け、場所がわかりやすいようにしている。				居室には手作りの名札、トイレには「便所」や「トイレ」と大きく表示し場所がわかるように工夫しているほか、必要などころに手すりを設置し、床にはトイレ誘導する白テープを貼るなど、安全に自立した生活が送れるよう配慮されている。			
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	排泄等の失敗が無いよう、定期的に声掛けし、トイレ誘導を行っている。服薬時は誤薬を防ぐため、声を出して薬と本人を確認している。					居室には手作りの名札、トイレには「便所」や「トイレ」と大きく表示し場所がわかるように工夫しているほか、必要などころに手すりを設置し、床にはトイレ誘導する白テープを貼るなど、安全に自立した生活が送れるよう配慮されている。		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌が読みたい人にはいつでも提供している。縫物を希望される方には裁縫用具も貸し出している。						居室には手作りの名札、トイレには「便所」や「トイレ」と大きく表示し場所がわかるように工夫しているほか、必要などころに手すりを設置し、床にはトイレ誘導する白テープを貼るなど、安全に自立した生活が送れるよう配慮されている。	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	玄関は開放しているが、徘徊防止の為センサーを取り付けている。夜間は不審者侵入防止の為、玄関、非常階段共に施錠している。	◎	◎	○	職員は鍵をかけることの弊害を理解している。安全確認のためセンサーを取り付けているが、玄関等の出入口は施錠されておらず、自由に出入りできるようにしている。			
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	徘徊が多いのと、不審者防止の為止むを得ず施錠している。鍵をかけない自由な暮らしと、犯罪防止の為の施錠とのギャップがある。					職員は鍵をかけることの弊害を理解している。安全確認のためセンサーを取り付けているが、玄関等の出入口は施錠されておらず、自由に出入りできるようにしている。		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関はモニターで来訪者を確認することができ、必要ヶ所にはセンサーも取り付けている。						職員は鍵をかけることの弊害を理解している。安全確認のためセンサーを取り付けているが、玄関等の出入口は施錠されておらず、自由に出入りできるようにしている。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時の基本情報や退院時の看護サマリーを熟読し、家族から話を聞くなどして把握している。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	朝のバイタル、日常の様子、入浴時の変化などに気を配り、異常が見受けられた場合は、日誌や状況表に記載している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	週1回の看護師のバイタルチェック(相談はいつでも可)、月1回の係りつけ医の訪問診療で、適切に対応してもらっている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	係りつけ医の月1回の訪問診療により、継続的に受療状況が把握できる。必要に応じて、専門医の受診も行なっている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	係りつけ医の紹介状にて、より専門的な医療を受けられるよう支援している。家族が希望される病院があれば受診している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	町内は無料で施設長、管理者で通院を行っている。町外については、原則として家族が通院するようにしているが、事情があれば代理で施設が通院援助をしている。家族には結果も含めて密に連絡をしている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際は担当看護師や医師に情報提供をしている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院時の洗濯物は、面会も兼ねてホームで行っており、随時入院状況の把握に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	看護師長、担当医師から入院状況報告の電話もいただいている。退院が近くなると連絡がある。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	体調の変化や気づき、気になることがある時は職員同士、あるいは上司、看護師に伝え、その都度対応している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	日中、夜間を問わず看護師、協力医療機関に連絡できるよう体制ができています。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	月1回の訪問診療により、体調の変化を報告し、指示を仰いでいる。血液検査等も定期的を実施している。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	係りつけ医、専門医療機関での投薬については、連絡ノートや薬局での処方せんで確認し、説明書もしっかり目を通している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	朝、昼、夕、寝る前と仕分けされた薬箱で毎日配薬し、飲み忘れのないように注意している。渡すときは間違いのないように、名前と本人の確認をしている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	下剤コントロール表、状況表などに記入することにより、すべての職員が確認することができる。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	服薬による症状の変化は、主治医、看護師に報告している。	/	/	/	

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	△	入居時に、終末ケアはしていない旨を説明しているが、実際には準終末ケアの体制になりつつある。	/	/	/	重度化や終末期支援等については、協力医や家族、職員等関係者を交え方針を話し合い共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	係りつけ医または協力医療機関、家族、ホームで終末について話し合い、意向が一致すれば、消防署の協力を得てギリギリまで支援する体制はできている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	内部研修でどこまでの支援ができるか話し合っているが、完全な看取りは困難である。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約時にある程度の説明はしている。重度化した場合は家族と十分に話し合っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	△	現在、重度や終末期の方はおらず、十分な看取り体制も整っていないが、それに近い体制にはなりつつあると思う。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族会等で話し合いをし、家族の希望も把握している。家族の意向はできる限り受け入れている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	外部研修、内部研修には随時参加し勉強している。資料を共有し、認識するようにしている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルを作成し、感染症グッズもひとまとめにしてすぐに対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	運営推進委員として、行政の方も参加、その折に報告を受けている。行政、医療機関、メディア等の情報を取り入れ、対策を立てている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	情報を収集し、流行の兆しがあれば、速やかにマスクの着用、手洗いの徹底、面会の自粛等対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員の手洗い、うがい、マスク着用の徹底と、外部からの感染予防の為、面会者のマスク、消毒もお願いしている。利用者の体調変化にも注意している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	「皆が一つの家族である」という思いで助け合い、支え合い、励ましながら日々接している。	/	/	/	年1回家族会を開催し、利用者と一緒に職員手作りの食事やイベント等を楽しんでいる。家族には2か月に1回利用者の写真を添え、職員手書きの手紙を送付するなど、利用者の日頃の様子を伝えており、広報誌発行時に同封するようにしている。事業所の運営や職員の異動等については、家族会の話し合いの場で報告し理解を得るようにしている。面会時には家族に声をかけるなど、話しやすい雰囲気づくりに努め、利用者の様子を伝えたり、家族からの要望を聞き取るようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	面会者が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような対応はできているが、居室の宿泊までの対応はできていない。宿泊希望の方も今まではない。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	年に1回家族会を催し利用者と共に食事やイベントを楽しんでいる。家族との外泊、外出も自由である。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	2か月に1度、担当者が写真入りのお便りを出して近況報告をしている。定期的に広報誌も発行、送付している。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	家族会時に家族の方のみの会議を開き、ホームへの不満疑問点など忌憚のない話し合いをして貰い、結果についても報告している。面会や電話で相談を受ける事も多い。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	「あいの里だより」を発行し、年間行事やそれに伴う利用者の表情を発信している。2か月に1回担当の手紙でも近況を発信している。家族の面会も多いほうで、家族関係は良好である。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	家族会の話し合いの場で、資料を基に詳細に報告している。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	年1回の家族会で交流を図っている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	ケアプランの見直しを定期的に行い、家族に送付している。命に関わること以外は抑圧せず、のびのびと生活して頂けるよう支援している。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には気軽に何でも声かけて頂くように常日頃より家族の方をお願いしている。担当者からのお便りを通じて意見交換ができるようにしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入居契約時に時間をかけ説明している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	ホームでの生活が困難になってきた場合、家族とよく話し合い、利用者にとって最もベストな方法を選択するようにしている。退居後の行き先も考慮している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入居契約時に契約書及び重要事項説明書で具体的に説明し、同意を得ており、改定時にも文書で丁寧に説明をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議のメンバーとして近隣地域の方が参画、運営状況、サービス提供の方針、日々の活動状況等について報告し助言をもらっている。	/	◎	/	自治会に入会し、地区の総会に代表者自らが参加している。事業所の交流館では毎週様々なイベントを開催し、地域住民を招待するなど、地域との交流を深めている。西日本豪雨災害時に近所のコンビニから食料を提供してもらったり、事業所の地下水を近所に提供したりするなど、お互い協力し助け合う関係が築けている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	自治会に参加している。施設でイベントがある時は声をかけ、参加してもらっている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	旬の野菜、果物、手作りお菓子を頂いたり、季節ごとに気にかけてもらっている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	施設の一部(交流館)を開放し、いつでも使用できるようにしている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	施設でイベントがある時は声をかけ、一緒に楽しんでいる。散歩に出ると、近隣の方が気軽に声掛けをして頂く。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	町内での行事参加時にはボランティアで支援して頂いている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	各医療機関、消防署、社協、市役所、包括支援センター、JA等協力して頂いており、相談にも乗ってもらっている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拓ける働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	7月の水害時の断水、停電の折、コンビニから物資を融通して頂いたり、近隣の方から支援物資を頂いたりとても助かった。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	年6回の会議には家族や地域の方以外に、元施設長、民生委員、社労士、市役所、包括支援センターの参加もある。	x	/	△	運営推進会議には、利用者や家族、民生委員、市、地域包括支援センター職員等の参加を得ているが、参加していない家族等には理解されていない感があるため、家族全員の理解が得られるよう努めて欲しい。会議では、外部評価結果等取り組み状況について報告している。また、活発な意見も出ており、出された意見は職員会等で運営に活かせるよう話し合い、サービス向上につなげている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価の内容、結果はその都度報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	報告に対しては、活発な意見交換があり、参考にさせて頂いている。議事録も回覧し、全職員が周知している。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	メンバーが参加しやすい時間帯に開催している。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	議事録はその都度市役所へ提出、ホーム内でも閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念はホームの目に付きやすい場所に貼って、お互いに意識しながら実践できるように心掛けている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	施設内の目に付く場所に理念を掲げており、日々の生活の中で話し合う事もある。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	年間を通じ、職員全体が研修を受けられるようにしている。	/	/	/	代表者は、畑仕事に毎日のように訪れ、旅行土産を持参するなど気さくな人柄で職員から親しまれている。職員の意見を直接聞き、状況を常に把握しており、無理のないシフトを組み職員のストレス軽減に努めるなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	毎年実践者研修に申し込んでいるが、応募者が多いのか、なかなか採用されない。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員の勤務状況は代表者が十分把握しており、職員の福利厚生についても、各自向上心を持って働けるよう努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	相互研修にも毎年参加していたが、近年参加施設の減少で昨年はトリプル研修となり、今年度は参加を見送った。各種研修ではできるだけ参加し、交流を図っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	無理のない勤務表作りを心がけている。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	順次研修にも参加し、職員会、内部研修等で繰り返し学習し、理解している。	/	/	/	不適切な声かけがあった場合には、その都度注意するようにしている。職員会議等で、不適切なケア等を発見した場合の対応方法や手順等について徹底した指導に努めており、職員は常に意識しながら支援している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ケア会議を毎月行い、日々の変化について全員が共通認識の下支援できるように話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員同志が声かけ合ったり、管理者、主任がその都度当事者に声掛けし、改善の方向に導いている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	職員の過労やストレスには注意を払っているが、何でも相談できるような雰囲気していきたい。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	内、外の研修会で理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会等で認識している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	拘束は殆どしていないが、一人だけL字型柵を使用している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	管理者が代表として勉強会に参加、職員会で全職員に報告している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	研修会に参加、職員会で報告している。相談は今のところない。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	現在はない。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成し、研修会にも参加、職員会でも看護師による勉強会を開いている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	消防署による応急処置、心肺蘇生、AEDの使い方等全職員が受講、看護師による講習も受けている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	誤薬、転倒等の他細かい事例に至るまで、ヒヤリハット記載、記録として残し全職員が目を通し、サインしている。事故報告書は速やかに市へ提出している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	常に状態を把握し、職員間の連携を密にしている。口頭その他連絡簿で対応している。徘徊の危険性等リスクのある利用者にはセンサーを利用し見守りを行っている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情、問題が生じた時はマニュアルに添って対応するようにしている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	真摯に受け止め、職員会でも報告、話し合いをして再発防止に努めている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情には対しては速やかに対応し、本人、家族の納得を得ながら良い関係作りを努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	年3回、介護相談員の訪問を受け入れ、利用者の意見や要望を聞く機会がある。個人的にも苦情、要望を聞いている。	/	/	○	利用者からは、日々の関わりの中で要望を把握するほか、年3回介護相談員の訪問があり利用者の思いを聞いてもらっている。家族からは、家族会の後家族のみで話し合う機会を持ち、自由に意見を述べてもらうようにしている。管理者は、職員と何でも言い合える関係が築けており、職員からは積極的な意見や提案を聞き取っており、職員会議等で業務に活かせるよう検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口を作っている。家族会でもスタッフが入らない形での会議を開き、ホームに対する忌憚のない意見を出してもらっている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	苦情相談専用窓口を設定し、順次苦情受付をおこなっている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	職員会には必ず代表者の参加があり、職員の意見や要望等を聞いてもらっている。普段から話しやすい雰囲気がある。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	毎月の主任会、職員会で要望が言える機会を作り、またより良い支援の為、皆が研修に参加できるよう心掛けている。	/	/	○	

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	実施している。	/	/	/	運営推進会議で評価結果等について報告し、参加者から助言や提案が出るなど、評価の取り組みに対するモニター等をしてもらい運営に活かせることができている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価終了後は、職員会で課題や指導事項を議題として取り上げ、改善のための話し合いをしている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	指摘事項はできる範囲で改善の努力をしている。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	それぞれの機関に報告、助言を頂いている。	×	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	職員会や運営推進会議で確認している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	各災害のマニュアルを作成し、内部研修等で周知している。	/	/	/	年2回近隣住人の参加を得て避難訓練を行っている。西日本豪雨災害時には、地域住民と助け合うなど、連携強化にも努めることができたが、災害の備えに不安を感じている家族もいるため、今後さらに緊急災害時の利用者の安全確保に努めるなど、家族の理解が得られるよう徹底した支援に取り組むことが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	昼夜を問わず、利用者が避難できるよう、地域との協力体制を築いているが、今年7月の洪水体験では今の体制は心もとない。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	敷地内に消火栓を設置している。水や米燃料など備蓄し賞味期限を確認しながら管理しているが、実際に災害で断水、停電が長引くと不安がある。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年2回、定期的に避難訓練を実施している。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	市の共同避難訓練に参加したり、市や消防署から発信される災害対策に留意している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	実施していない。	/	/	/	直接来訪による相談を受けることがあり、適切なアドバイスを提供しているが、地域における相談支援窓口としては物足りなさを感じるため、事業所の相談支援について地域に周知し、相談ニーズの受入れを積極的に行うように努めて欲しい。市や地域包括支援センター職員とは、運営推進会議を通じて助言や支援を得ながら連携を図っているが、関係機関との共同のイベント開催には至っていないため、連携をさらに強固にし、地域活動等にも積極的に取り組むことが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談されることもある。	/	○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	プロの歌手、有志、ボランティアによるイベントの開催には地域の方にも呼びかけ、自由に参加してもらっている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	受け入れの体制はあるが、今のところ希望者はいない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	中学校のボランティアは受け入れている。	/	/	△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成31年3月6日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3891400016
事業所名	グループホームあいの里
(ユニット名)	ひまわり
記入者(管理者)	
氏名	柴田 薫
自己評価作成日	30 年 12 月 28 日

<p>【事業所理念】 あいの里はみんなが一つの家族です。助け合い、支え合い、励まし合い、温かな、明るい笑顔のある家庭を目指します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 個々のプランが、スタッフサイドで作成することが多く、利用者、家族の意向や希望を反映できていなかった。 目標・利用者、家族の意向や要望を重視し、利用者サイドに立ったプランを作成する。結果：様式を変更し、本人の希望を取り入れ、希望に添った援助目標、援助内容とした。家族からの要望も面会時や電話でできるだけ聞くようにしているが、多くの方が「別にありません」とか「満足しています」との回答が多く、スタッフで推測して希望欄に記入する場合もあった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は国道から入った静かな場所にあり利用者は穏やかな環境で過ごすことができ、時には畑に出て収穫の手伝いや周辺の散歩など、家庭に居るような雰囲気味わうことができている。利用者の尊厳を大切に家族の意向を聞きながら、寄り添う姿勢を大切にしている。毎週交流館ではカラオケ大会やリハビリ体操、ビンゴゲームを行うなど、利用者に好評を得ている。事業所はボランティアやプロの歌手を招いたり、地元住民との交流を兼ねたイベントを開催するなど、地域住民との交流の場として定着している。広い菜園では季節の野菜が収穫でき、代表者自らが世話をし気さくな人柄で地域住民からも慕われている。勤続年数の長い職員が多く優しい声かけや気配り目配りが自然に行えている事業所である。</p>
---	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	毎日の申し送りや、月1回の職員会、カンファレンスで話し合い、個々の希望、意向の把握に努めている。	◎	/	○	日々の関わりの中で利用者一人ひとりの思いを聞き取るよう努めている。介護計画の見直しの際は改めて希望を確認するようにしており、「家に帰りたい」「夫に会いたい」など率直な思いを聞いている。意思疎通が困難な利用者は、表情等から気持ちをくみ取るよう努め、申し送りノート等で伝達し共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	把握が困難な場合は、本人の意見を聞く事はあまりない。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面会時や電話で家族の思いを聞いている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	サービス計画書を作成し、本人の思い又は家族の意向を聞きファイルしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	生活全般の解決すべき課題として、担当者が発表し、職員全員で話し合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	今まで使用していた馴染みのものを使用している。	/	/	○	入居時、家族から生活環境や食べ物の好き嫌いなどを詳しく聴取し、知人や昔勤めていた会社の同僚などからも、こだわりにしてきたことなど情報を把握するよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	何かをしたり、行事やレクに参加する場合は声掛けし、本人の意思を尊重している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	顔つき、声のトーンで様子を伺っている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	利用者1名を職員2名で担当し、ゆったりと話せる夜勤帯や入浴時に思いや意向を聞いている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	9:00～翌9:00までの排泄、食事、行動パターン、睡眠などを記録し、引き継ぎ等で現状把握し、共通の認識を図っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	本人、家族の思いや意向を確認しながら検討している。	/	/	○	職員が利用者の思いなどを把握した上で「私の願いや支援してほしいこと」の用紙に記入するようしており、それを基に家族の意見なども取り入れ、利用者本位の視点で検討するようになっている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	△	日々利用者と生活を共にする中で、気づき、考え、意見を交換しながら必要な支援を考えている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	会議の時に相談し合ったり、毎日の引き継ぎ時にも、気になることは話し合いをしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人から意見を聞いたり、普段の生活の中から汲み取るようにしている。	/	/	/	利用者や家族の意向を確認し、職員が意見やアイデアを出し合いながら介護計画を作成しているが、職員中心の話し合いになっているため、家族等関係者を交え話し合うなど、より良い介護計画の作成につなげて欲しい。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	面会時に家族から意見を聞いたり、主治医と相談したりして作成している。	○	/	△	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	できる限り、ここでの生活が続けられるよう計画を立てている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域や他の地区のボランティアの方々に多く来て頂いている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	6カ月に1回ケア会議で話し合い、共有している。	/	/	○	ケア会議等で話し合い、介護記録用紙に目標を記載している。職員は介護計画に沿って支援ができていのかどうか毎日評価し、介護記録に記載するなどして、利用者一人ひとりの介護計画を把握している。経過支援記録を別に用意し、利用者の言葉や表情など日々の様子を記録している。排泄用品の変更提案など、職員の気づき等は申し送りノートなどに記録し共有するようにしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	個々の介護記録にプランを記載し、毎日評価できるようにしている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	個々の介護記録に具体的内容を記録するようにしている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	介護記録の他に通院状況、身体の変化気付きも記録している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間内に担当者がアセスメントを行っている。	/	/	○	介護計画は6か月毎に見直している。毎月モニタリングを行い利用者の状態を確認している。状態に変化が生じた場合は、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	ケア会議で話し合うこともある。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	ケア会議時や、改善点が発生した場合は随時話し合い、より良い支援ができるよう計画を立て直している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	ケア会議で話し合いをしているが、緊急の場合は数人で話し合うこともある。	/	/	○	毎月ケア会議を開催するなど、定期的な話し合いを持つようにしている。緊急時等必要な場合は、その都度出勤職員で速やかに話し合い、結果は職員が共有できるよう申し送りを行っている。参加できない職員には、会議録を回覧・確認し共有するようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	月1回の職員会議で忌憚のない話し合いや、意見交換をしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	月末のほぼ決まった日にpm6時半より開催、夜勤者以外は出席している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を回覧し、閲覧済のチェックを入れるようにしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	職員会の議事録や研修レポートは回覧で伝達事項を共有している。	/	/	○	申し送りノートや業務日誌、連絡ノートを活用し情報を伝達するなど、確実に共有を図っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	勤務交代の申し送りは口頭で、他の申し送りや気付きは連絡ノートを活用し、情報共有できるようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	利用者の高齢化と重度化で、業務に追われ毎日実践できていない。	/	/	/	<p>外出に出かけた際に食べたい物を決めてもらうなど、日々の生活の中でできる限り自分で選んで決めることができるよう支援している。調査時には、利用者が塗り絵やペーパーバック折りなどを、職員が横で寄り添い優しい言葉をかけながら楽しむ様子を見ることができ、雰囲気づくりにも工夫していることが窺えた。</p>
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	交流館での行事はできるだけ参加して頂いているが、拒否されて場合は自分の好きなことをして頂き、本人の気持ちを尊重している。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	食べたいもの、して欲しいこと、してみたい事を一人一人にゆくり聞いて、できる事を支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	常に声掛けをして、何事も強制しないよう、本人のペースを大切にしている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	午前午後の体操は毎日欠かさず実施し、風船バレー等レクも工夫している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	できるだけ利用者に寄り添い、行動を見守りながら、意向をキャッチするようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉がけや態度等について、常に意識して行動している。	○	内部研修などで、できていない時はお互い注意するようにしている。	◎	◎	○	<p>職員は人権や尊厳について、研修等で学び理解しており、日々の言動等には細心の注意を払い支援している。利用者に不快な思いを与えないよう、職員は声の大きさにも留意し、さりげない声かけに努めている。居室に入る際は、ノックと声かけを徹底している。</p>
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	大体できているが、時々大きな声で声かけている時がある。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	排泄時や入浴時はドアのカーテンを閉めて、プライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時は、ノックや声掛けをしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報、外部に洩らさない様心掛けている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	お手伝いや協力して頂いたときは必ず「ありがとうございました」「助かりました」と言うようにしている。	/	/	/	<p>利用者同士がトラブルにならないよう、職員は仲介するなど配慮している。世話好きな利用者やムードメーカーの利用者は、利用者の中に孤立する人が出ないよう気を配り支え合う関係ができおり、職員はその良い雰囲気が保てるよう努めている。</p>
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	元気な利用者さんが他者を助けて下さるときは、職員は見守っている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	同じ地域の人や話し相手になれる人は近くの席で過ごせるようにしている。皆が集まった時は共通の話題を提供している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	なるべく隣同士にならない様配慮している。	/	/	/	

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	家族や本人から話を聞いている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	家族や本人から話を聞いている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	地元の敬老会や、同級会に参加された方もいる。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	家族、友人など面会に来られる方も多く、気兼ねなく話ができるように心掛けている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	天気の良い日には積極的に車椅子や徒歩で戸外散歩に出るようにしている。	○	○	○	事業所周辺の散歩や、農園に行き野菜の生育を確認し収穫するなど、日常的な外出支援に努めている。重度の利用者も、外気浴や散歩ができるよう支援に努めている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地域のお祭りや行事に出かける時はボランティアの協力を得ている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	車椅子で外気浴など戸外に出ることもある。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	お花見や地域の行事など、ボランティアの協力も得ながら出掛けている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	個々の利用者の状況を職員同士が密に報告し合って、行動や心理状態に合ったケアをしている。	/	/	/	モップがけや手すりの消毒、新聞整理や台所仕事など、利用者ができることに取り組んでもらえるよう、職員は見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	現在できている機能が低下しないよう、無理強いほしないという原則の下、声掛け支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	毎朝のモップかけ、毎食後のお膳拭き、台ふき等できる事は日常の事として手伝って頂いている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	一人一人が持てる力を発揮できるように日々の生活の中で役割分担し、職員と共に行い、気分転換や楽しみにつながるよう支援している。	/	/	/	リビングでは塗り絵やクイズ、間違い探しなど利用者が自分の好きなことを選んで取り組んでもらっている。掃除や食事の手伝いなど、利用者それぞれできることの役割や出番を担ってもらえるよう支援に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	塗り絵や、間違い探しなどのクイズをして楽しんだり、新聞を用途別に折ったり、ごみ箱を作ったりしている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域内、他施設のイベント参加や、かまぼこ展、乙亥相撲見物にも出掛けている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	2か月に1回、訪問美容により、散髪をしている。長さ等本人の希望を取り入れている。	/	/	/	服装の乱れや食べこぼしなどがなく職員は確認し、さりげなく支援するよう努めている。重度の利用者を含め、訪問理容の利用や、行きつけの美容室に定期的に行き髪型を整えることなどを通して、自分らしさが保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	利用者の意思を尊重し、本人に聞いて決定してもらうよう心掛けている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	声掛けし、本人の希望に添えるように考え、満足して頂けるよう支援している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出、イベント参加時は本人の好みの洋服と一緒に選んで着て頂くようにしている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	利用者の状態観察を怠らず、優しく声掛けしさりげない支援をするよう心掛けている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	2か月に1回、訪問美容により、散髪をしている。長さ等本人の希望を取り入れている。行きつけの理美容院に行っている人もいる。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	朝は必ず更衣し、整容ができるよう支援している。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事は利用者の一番の楽しみであり、健康のパロメーターであることを理解している。	/	/	/	テーブル拭きや下ごしらえ、洗い物などは利用者と職員と一緒にしている。自家菜園で収穫した旬の野菜が食卓に上るなど、季節感を味わうことができる。食器は利用者個々に合った好みのものを使用している。職員は同じテーブルで食事を摂り、利用者のペースに合わせて優しい声かけを行うなど工夫した支援に努めている。重度の利用者もリビングに出て食卓を囲んでおり、職員が献立の話をするなど、食欲増進に努めている。管理者が中心となり職員間で定期的に話し合い、利用者の好みを取り入れながら、栄養に偏りがないよう献立の作成につなげている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	自家菜園があり、一緒に収穫したり野菜の皮むき、食器洗い、食後の片付けなどを手伝ってもらっている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	後片付け時のお膳、台ふきは毎日自発的にして頂いている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	本人と家族の方から食べ物の好き嫌いやアレルギーの有無を聞き、職員も周知している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	調理スタッフも毎日変わり、メニューも色々考えながら取り組んでいる。アレルギーの方には別メニューを作っている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としてつつ、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	一人一人に合わせた食事形態にしている。現在嚥下困難の人はいないので、ミキサー食はしていないが、一口大カットや刻み食で対応している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	箸、茶わんは各個人のものを使用し、不都合のある方には軽い食器やスプーンを使用している。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	利用者の傍に座り、同じものを食べながら見守り、支援をしている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	皆さん食欲旺盛で、残食も殆どなく、「おいしい」と言われながら食べられている。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	大体同じような量にしているが、糖やカロリーが気になる人は控えめにしている。水分もこまめに摂取している。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事量、水分量は毎回チェックしており、1日の摂取の合計を出し記録している。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	昼食のメニューは予め決まっているが、朝食と夕食の献立は前日と重複しない様配慮している。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食器は洗浄後毎回乾燥機にかけ、まな板はハイター消毒している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	職員が勉強会に参加し、職員会で報告、レポートも回覧し誤嚥性肺炎の防止に努めている。	/	/	/	毎食後歯磨き支援を行っているが、日常的に利用者の口腔内の状況を確認し、健康が保持できるよう支援するまでは至っていないため、毎日利用者一人ひとりの口腔内の状況を確認すると共に、健康状態が保てるよう清潔保持の徹底に努めて欲しい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケア時には必ずスタッフが付き添い、見届けている。	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	不都合があれば、管理者に報告、歯科通院し歯科医や歯科衛生士の指示に基づいて支援している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後義歯洗浄し、夜は外して頂く。週1回ポリドント洗浄を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後口腔ケアを実施している。口臭のある人は舌苔ブラシを使用、口腔の清潔保持に努めている。	/	/	△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	異常が見られたらすぐに管理者に報告、受診している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	一人一人の排泄状態を把握し、できるだけパットなしの方向で職員が話し合い、心身にダメージを与えないように気を付けている。	/	/	/	日中・夜間問わず、トイレでの排泄を基本とした支援に努めている。紙パンツやパッドが必要になった場合には、ケア会議等で利用者に合わせて排泄用品の必要性等を検討するなど、それぞれの状況に応じた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排泄ケアの研修に参加したり、看護師からアドバイスをうけ、便秘の影響について学んでいる。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	毎日排泄チェック表を記録している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	本人の訴えない場合は、排泄時間を見計らってトイレ誘導したり、排泄の量によりパットの容量を変えたりしている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	医師の指示の下、緩下剤を有効に活用したり、便秘防止の体操をしたり、水分を摂ったりしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	夜間のトイレ誘導や、昼間の時間を見計らっての声掛けを心がけている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	個々の利用者の尿量と時間帯を話し合っパット、パット選びをしている。理解できる方には、説明、アドバイスをしている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	その人の排泄の頻度や尿量に配慮しながら、パットの使い分けをしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	薬を使用している人も多いが、自然に近い排便ができていと思う。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	ほぼ1日おきの入浴になっているが、拒否される時は無理強いはいしない。温度は熱め、ぬるめと好みに応じるようにしている。	◎	/	○	2日に1回入浴できるようになっているが、利用者からの要望があれば入浴日以外も対応できるようにしている。入浴時間の長さや湯温なども要望に沿えるようにするなど、臨機応変な支援に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	熱いお湯を好まれる方には追い焚きをしてゆっくと湯船につかれるよう見守りしている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	洗髪、洗身のできる事はして頂き、付き添い、見守り、介助をしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴日であることを本人に伝え、拒まれた場合は無理強いしないようにしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	健康状態が気になる時は朝のバイタルチェックだけではなく、入浴前にもチェックし、可否を決定するようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	個人に合わせ、室内の照明、冷暖房の調節をしている。	/	/	/	活動を増やすなど、日中の過ごし方に工夫した支援に努めて、安易に薬剤に頼らないようにしている。不眠が続くなどやむを得ない場合は、医師と相談し薬剤を処方してもらうこともある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜間眠れない人はあまりいないが、日中は体操やバレーをして身体を動かすようにしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	医師の指示のもと、安定剤、眠剤を服用している人もいる。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自由にして貰っている。昼食後は自室で横になられる方もいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	個人で携帯を所有し、家族と連絡を取ったり、手紙のやり取りも自由にされている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	切手を購入したり、あて名を記入したり、要望に応じている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	希望があれば自由に家族へ電話をかけてもらっている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙は必ず本人に渡し、要望があれば代読している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	1名の方は携帯を所持され、家族と連絡されているが、家族も了承済みである。家族からの電話も取り次いでいる。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	数名は所持されているが、他は紛失の恐れがあるので持たせていない。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	化粧品やお菓子など申し出があれば職員と一緒に行くようにしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	主に管理者が付き添い、買い物をしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	契約時、家族の了解の下、一部の方は少額の現金を所持しているが、おこずかいは管理者が管理し、希望に応じて使えるようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	所持金、管理方法については、契約時に保護者、本人と話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入所契約の折に説明し同意を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	希望に応じた外出支援、係りつけ医の受診、往診、町外の専門医の受診、理美容室の利用等、個々の希望に添った支援をしている。	◎	/	○	病院受診や選挙の投票など、利用者や家族からの要望があれば対応するなど、柔軟な支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(3)生活環境づくり											
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	周辺には野菜や季節の花を植え、垣根などはなくオープンな雰囲気である。	◎	◎	◎	玄関周辺は利用者が植えた鉢植えの花が色とりどりに咲いており、ゆったり落ち着いた気分になることができるなど、気軽に出入りできる雰囲気になっている。		
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	共用スペースには行事等の写真や塗り絵など掲示している。季節に合った飾りつけの工夫もしている。季節の花も持ち寄り活けている。	◎	◎	◎	リビングには椅子やソファ、畳コーナーがあり、温度や換気に配慮するなど、利用者に気持ちよく過ごしてもらえるよう努めている。毎朝掃除をしており、清潔感が感じられる。玄関や廊下には生花を飾り、壁には利用者直筆の書や季節感のある作品、イベントの写真等が掲示されている。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎朝、またはその都度トイレ掃除をして、常に清潔保持に努めている。					○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花々、また季節に応じた装飾等を絶やさぬように心掛けている。						○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	独りになれる自室や、みんなと会話したりテレビ鑑賞ができるリビングと好みの場所で過ごされている。						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	扉とカーテンでプライバシーが保たれている。						
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	衣装ケースやダンス、食器など家で使われていた馴染みのものを使われている。	◎			居室には家族の写真や仏壇など利用者の大切なものが持ち込まれ、落ち着いて過ごせる部屋づくりがされており、居心地良く過ごせるようになっている。		
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	ホーム内は、安全に生活できるようバリアフリーで随所に手摺りも付けている。各居室、トイレにも目印をつけ、自立支援や安全な環境作りに努めている。				○		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	声掛けすることを忘れず、心配がある時は常に寄り添い、傾聴するように努めている。						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	個人で裁縫箱を持ち、簡単な縫物をする人もいるが、大体は職員がしている。雑巾縫いや、花壇の花植えなどは協力してもらおう。					居室には手作りの名札、トイレには「便所」や「トイレ」と大きく表示し場所がわかるように工夫しているほか、必要などところに手すりを設置し、床にはトイレ誘導する白テープを貼るなど、安全に自立した生活が送れるよう配慮されている。	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	両脇非常階段は転落の危険があるため施錠しているが、あとはオープンである。要注意箇所にはセンサーが取り付けられている。	◎	◎	○	職員は鍵をかけることの弊害を理解している。安全確認のためセンサーを取り付けているが、玄関等の出入口は施錠されておらず、自由に出入りできるようにしている。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	夜間のみ玄関を施錠している。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関ではモニターで来訪者を確認することができ、必要箇所にはセンサーも取り付けられている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所時のサマリーや退院時の看護要約を熟読するようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	朝のバイタル、日常の様子、入浴時の変化などに気を配り、異常が見受けられた時は日記に記載している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	月4～5回の看護師のバイタルチェック(相談はいつでも可)、月1度の係りつけ医の訪問診療で適切に対応している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	病状によっては、専門医で受診している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	係りつけ医の紹介状によって、より専門的な医療が受けられるよう支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	管理者が家族の代理で通院を行う時もあり、その場合は家族に連絡をしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際には、担当看護師や医師に情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院時の洗濯物は面会も兼ねてホームで行っており、随時入院状況の把握につとめている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	看護師長、担当医師から入院状況報告の電話も頂いており、退院が近くなると連絡もある。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	変化や気づき、気になることがある時は職員同士、あるいは上司、看護師に伝え、その都度対応している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	日中、夜間を問わず看護師、協力医療機関に連絡できるよう体制ができています。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	月に1度の訪問診療、その他専門医療機関への定期的通院を行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	訪問診療や専門医療機関での投薬、追加薬については、連絡ノートや薬局での処方せんで確認している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	朝、昼、夕、寝る前と仕分けされた容器に毎日配薬し、毎回名前を読み上げ、本人の確認をして服薬支援をしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	下剤コントロール表、状況表など記入することによりすべての職員が確認することができる。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	新しく処方された薬については、訪問診療時等に効果を報告している。				

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態変化の都度、家族と相談している。	/	/	/	重度化や終末期支援等については、協力医や家族、職員等関係者を交え方針を話し合い共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	△	現在、方針を模索中である。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	状態変化は常に把握し、その状況にあった支援ができるよう対応しているが、終末ケアには至っていない。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時に説明している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	△	現在、重度や終末期の方はおらず、まだ十分な看取り体制は整っていない。家族、ホーム、病院、消防署の合意の下、1度だけ準看取りを行ったことがある。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の意向を出来る限り受け入れている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会、研修があれば随時参加し、資料を共有し、認識するようにしている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症グッズをひとまとめにし、すぐに対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	運営推進委員として、行政の参加もあり、その時に地域の感染発生状況等の報告を受けている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	注意報、警報発令で流行の兆しがあれば、速やかにマスクの着用、手洗いの徹底、面会の自粛などで対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	外出後の手洗い、食事前の手洗い、消毒等毎日徹底している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	「皆が一つの家族である」という思いで日々接している。				年1回家族会を開催し、利用者と一緒に職員手作りの食事やイベント等を楽しんでいる。家族には2か月に1回利用者の写真を添え、職員手書きの手紙を送付するなど、利用者の日頃の様子を伝えており、広報誌発行時に同封するようにしている。事業所の運営や職員の異動等については、家族会の話し合いの場で報告し理解を得るようにしている。面会時には家族に声をかけるなど、話しやすい雰囲気づくりに努め、利用者の様子を伝えたり、家族からの要望を聞き取るようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	居室で話されたり、要望と一緒に外出し食事をされることもあり、いつもオープンな雰囲気です。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族会を催し、利用者と共にスタッフ手作りの食事やイベントを楽しんで頂いたり、外出、外泊も自由にしていただいている。	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	2か月に1回担当者が写真入りの近況報告の等のお便りを出したり、年数回の広報誌を送付している。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族会時に家族の方のみの会を開き、ホームへの不満、疑問点、要望等話し合いをもらい、結果についても議事録を基に報告している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	あいの里便りを発行し、年間行事やそれに伴う皆さんの表情を発信している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	家族会での話し合いの場で詳細に報告している。	○		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	年1回の家族会で交流を図っている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	行動が萎縮しない様、命に関わること以外は抑圧せず見守るようにしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族の面会の折や担当からのお便りを通じ、意見交換ができるようにしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入居時に時間をかけ、説明している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	家族とよく話し合い、利用者にとって最もベストな方法を選択するようにしている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入居契約時に契約書及び重要事項説明書等で具体的に説明し、同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議のメンバーとして近隣の方が参加、運営状況や日々の活動状況等について報告、助言をもらっている。	/	◎	/	自治会に入会し、地区の総会に代表者自らが参加している。事業所の交流館では毎週様々なイベントを開催し、地域住民を招待するなど、地域との交流を深めている。西日本豪雨災害時に近所のコンビニから食料を提供してもらったり、事業所の地下水を近所に提供したりするなど、お互い協力し助け合う関係が築けている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	自治会に参加している。施設でイベントがある時は声をかけ、参加してもらっている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	散歩のときに声をかけてもらったり、野菜や果物、手作りのお菓子を頂いたりと色々気にかけてもらっている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	施設の一部(交流館)を開放し、いつでも気軽に使用できるようにしている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	施設でイベントがある時は声をかけ、一緒に楽しんでいる。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	町内での行事参加時にはボランティアで支援して頂いている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	各医療機関、消防署、社協、市役所、包括支援センター、JA等協力して頂いており、相談にも乗ってもらっている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	7月の水害での断水、停電時はコンビニの方から物資を融通して頂いたり、地域の方たちからの支援もありとても助かった。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	家族や地域の方以外に民生委員、市役所、包括支援センターの参加もある。	x	/	△	運営推進会議には、利用者や家族、民生委員、市、地域包括支援センター職員等の参加を得ているが、参加していない家族等には理解されていない感があるため、家族全員の理解が得られるよう努めて欲しい。会議では、外部評価結果等取り組み状況について報告している。また、活発な意見も出ており、出された意見は職員会等で運営に活かせるよう話し合い、サービス向上につなげている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価の内容は、その都度報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	報告に対しては活発な意見交換があり、参考にさせて頂いている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	メンバーが参加しやすい時間帯に開催している。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	議事録はその都度市役所へ提出、公表している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	常に「明るい挨拶と笑顔」を念頭に対応している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	施設内の目に付く場所に理念を掲げている。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	年間を通じ、職員全体が研修を受けられるようにしている。	/	/	/	代表者は、畑仕事に毎日のように訪れ、旅行土産を持参するなど気さくな人柄で職員から親しまれている。職員の意見を直接聞き、状況を常に把握しており、無理のないシフトを組み職員のストレス軽減に努めるなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	毎年、実践者研修を申し込んでいるが、応募者が多いのか、なかなか採用されない。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員の勤務状況は代表者が十分把握しており、職員の福利厚生についても各自向上心を持って働けるよう努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	相互研修は毎年参加していたが、昨年より参加数が少なく、トリプルでの参加となったため、今年度は辞退した。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	無理のない勤務表作りを心掛けている。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会に参加、レポートを回し、職員全てが熟知している。	/	/	/	不適切な声かけがあった場合には、その都度注意するようにしている。職員会議等で、不適切なケア等を発見した場合の対応方法や手順等について徹底した指導に努めており、職員は常に意識しながら支援している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	疑問点、問題点、反省点などその都度投げかけ、話し合うようにしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員同志が声かけ合ったり、管理者、主任が当事者に注意し、改善の方向に導いている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	職員のストレスや疲労には注意をはらっているが、、何でも相談できるような雰囲気にはしていない。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修会や内部研修において理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会で認識している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	現在、家族からの要望はなく、拘束もおこなっていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	管理者が代表で勉強会に参加、職員会で全職員に報告し、資料、レポートを回覧している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	相談があればしえんできるが、現在はない。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	していない。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	応急手当、心肺蘇生、AEDの使い方等、全職員が受講している。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	転倒、誤等その他細かい事例に至るまでヒヤリハットに記載、記録として残し、全職員が目を通しサインしている。事故報告書は速やかに市へ提出している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	徘徊の危険性などリスクのある利用者にはせんさーを利用し、見守りをしている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情申し立てはマニュアルに添って対応している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	昨年利用者より1件苦情の申し立てがあった。真摯に受けとめ、主任会、職員会で話し合いし、再発防止に努めた。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対しては速やかに対応し、本人、家族の納得を得ながら良い関係作りに努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	年3回介護相談員の訪問を受け入れ、利用者の意見や要望苦情を聞く機会がある。個人的にも要望、苦情を聞いている。	/	/	○	利用者からは、日々の関わりの中で要望を把握するほか、年3回介護相談員の訪問があり利用者の思いを聞いてもらっている。家族からは、家族会の後家族のみで話し合う機会を持ち、自由に意見を述べてもらうようになっている。管理者は、職員と何でも言い合える関係が築けており、職員からは積極的な意見や提案を聞き取っており、職員会議等で業務に活かせるよう検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族会で家族のみの場を設定し、話し合いをしてもらい、忌憚のない意見を出してもらっている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	苦情相談窓口を設定し、順次苦情受付を行っている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	月1回の職員会には必ず出席し、スタッフの意見、要望、提案に対し、真摯に対応、アドバイスもしてもらっている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	毎月の主任会と職員会で要望が言える機会を作り、また、より良い支援の勉強の為皆が研修に参加できるようにしている。	/	/	○	

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	実施している。	/	/	/	運営推進会議で評価結果等について報告し、参加者から助言や提案が出るなど、評価の取り組みに対するモニター等をしてもらい運営に活かせることができている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価終了後は、職員会で課題や指摘事項を議題として取り上げ、改善のための話し合いをしている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	指摘事項はできる範囲で改善の努力をしている。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	それぞれの機関に報告、助言を頂いている。	×	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	職員会や運営推進会議で確認している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	各災害の具体的なマニュアルを作成し、内部研修等で勉強している。	/	/	/	年2回近隣住人の参加を得て避難訓練を行っている。西日本豪雨災害時には、地域住民と助け合うなど、連携強化にも努めることができたが、災害の備えに不安を感じている家族もいるため、今後さらに緊急災害時の利用者の安全確保に努めるなど、家族の理解が得られるよう徹底した支援に取り組むことが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	昼夜を問わず利用者が避難できるよう地域との協力体制を築いている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	敷地内に消火栓を設置している。水や米、燃料等を備蓄し、賞味期限を確認しながら管理している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年2回、定期的に避難訓練を実施している。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	年1回は消防署立ち合いで実施している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	実施していない。	/	/	/	直接来訪による相談を受けることがあり、適切なアドバイスを提供しているが、地域における相談支援窓口としては物足りなさを感じるため、事業所の相談支援について地域に周知し、相談ニーズの受入れを積極的に行う努めて欲しい。市や地域包括支援センター職員とは、運営推進会議を通じて助言や支援を得ながら連携を図っているが、関係機関との共同のイベント開催には至っていないため、連携をさらに強固にし、地域活動等にも積極的に取り組むことが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談されることもある。その場合は丁寧に対応している。	/	○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	ボランティア等によるイベントの開催には地域の方に呼びかけ、参加してもらっている。カラオケ機器があるので、普段から解放、活用してもらっている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	実施していない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	中学校のボランティア受け入れは行っている。	/	/	△	